



PASSPORT

fleur by PASSPORT



bao-bab fleur

PASSPORT
- WAREHOUSE -



Easy Cozy Days

平成22年2月期 第2四半期 決算説明会

平成21年10月

株式会社パスポート
コード番号 7577

Passport



当社の概要

1. 会社概要と経営理念

■会社概要

設立	1969年(昭和44年) 7月
資本金	3億6千9百万円
発行済株式総数	5,270,000株 (潜在株式なし)
取引市場	JASDAQ (取引コード7577)
事業内容	インテリア雑貨・生活雑貨の 販売



■経営理念

パスポートは、
パスポートのビジネスにかかわるすべての人びとが、
“楽しく”“美しく”“夢のある”人生を実現し
ハッピーになることで社会に貢献します

パスポートは、店、商品、社員を通じて、
お客様をハッピーにします

パスポートは、店、商品、社員を通じて、
地域の人びとをハッピーにします

パスポートは、店、商品、社員を通じて、
株主をハッピーにします

パスポートは、店、商品、社員を通じて、
取引先をハッピーにします

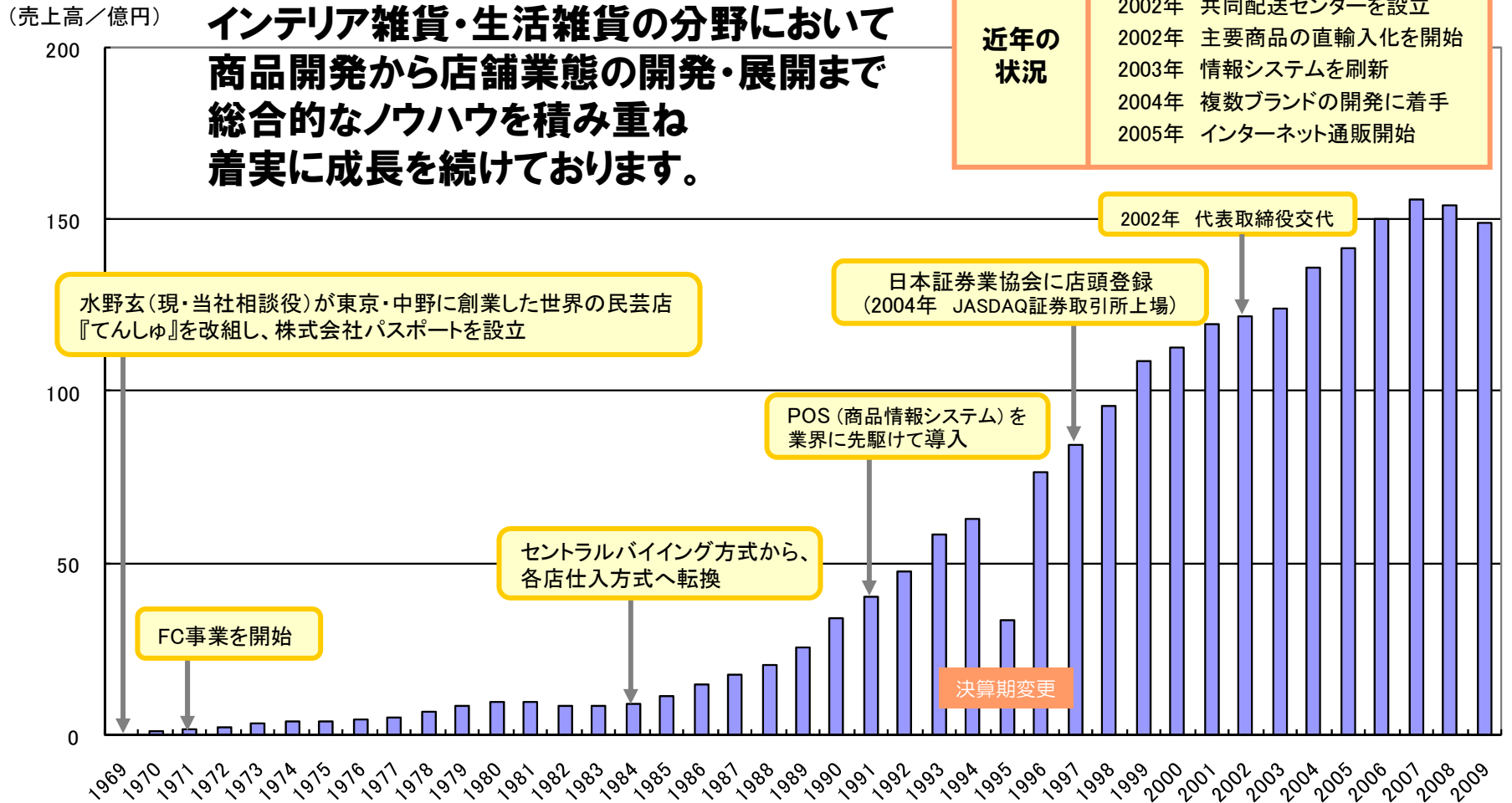
パスポートは、店、商品を通じて、
社員とその家族をハッピーにします

2. 当社の歩み

1969年の創業から現在まで、
インテリア雑貨・生活雑貨の分野において
商品開発から店舗業態の開発・展開まで
総合的なノウハウを積み重ね
着実に成長を続けております。

近年の状況

- 2002年 路面1号店を出店
- 2002年 共同配送センターを設立
- 2002年 主要商品の直輸入化を開始
- 2003年 情報システムを刷新
- 2004年 複数ブランドの開発に着手
- 2005年 インターネット通販開始



3. ショップブランドとポジショニング

従来の『PASSPORT』に加え、2005年より『fleur by PASSPORT』と『bao-bab.fleur』、2008年『Easy Cozy Dazy』を展開。また、店舗網の補完として、インターネットショップも運営しています。



PASSPORT 越谷レイクタウン店



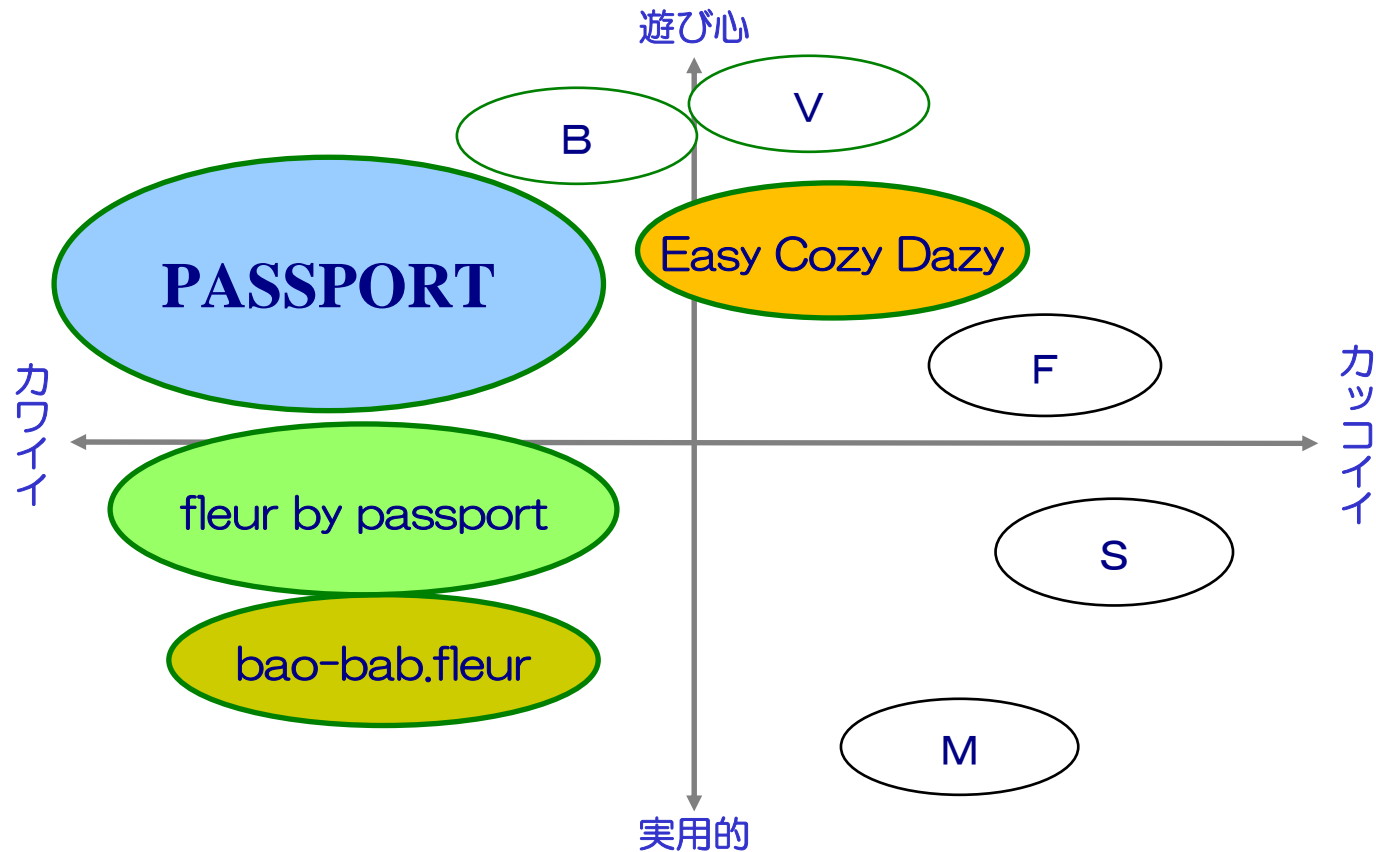
fleur by passport 長崎ココウォーク店



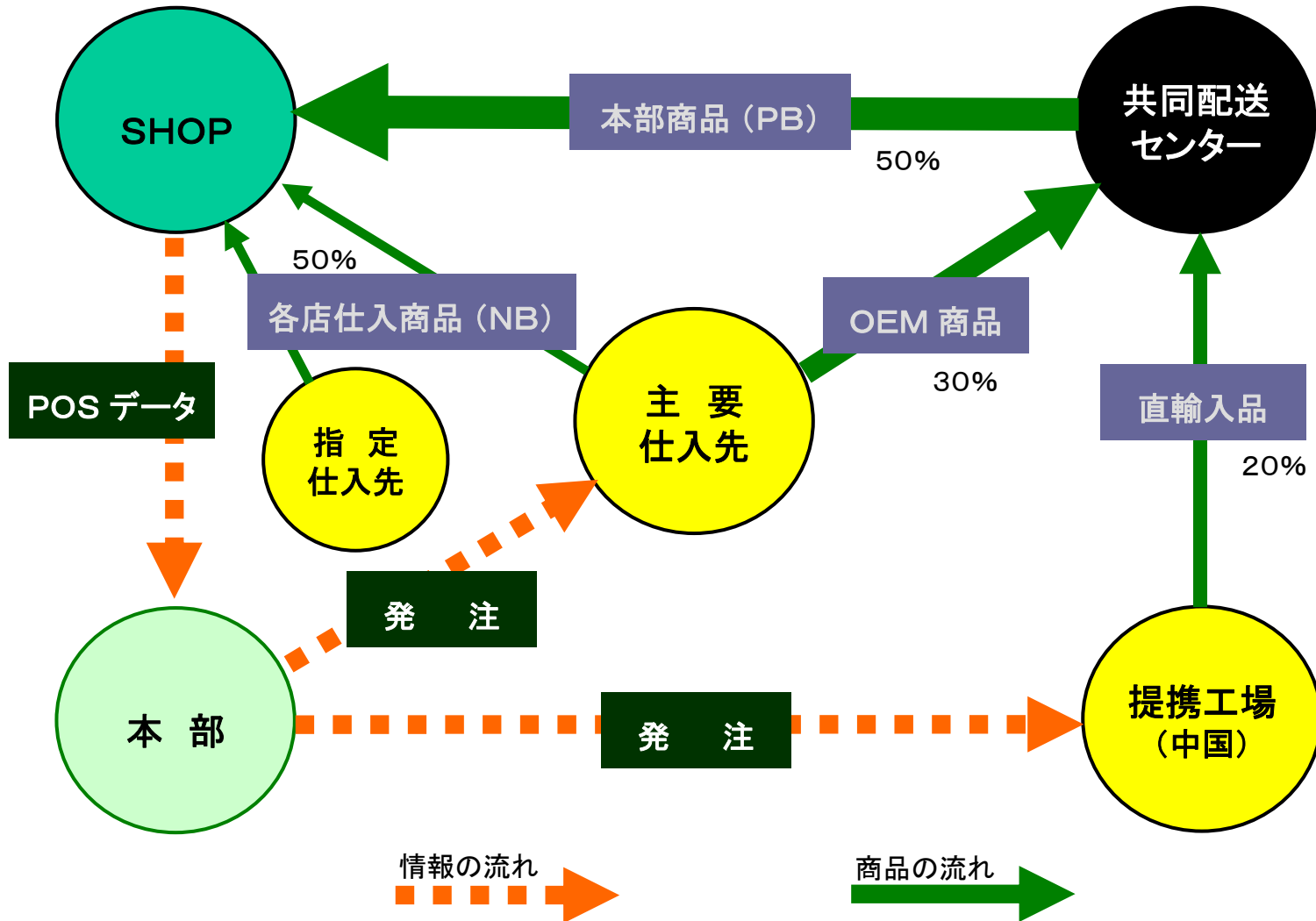
bao-bab.fleur 阪急西宮ガーデンズ店



Easy Cozy Dazy 岡崎イオンモール店



4. 当社のビジネスモデル



Passport



第2四半期決算の概要

1. 第2四半期決算のポイント

【経営環境】

- 昨秋からの深刻な景気後退局面
- 企業収益低迷のなか、雇用・所得環境の改善も見られず、個人消費は更なる節約志向へ
- 既存SC売上高の月次動向は、90%台前半の低調な水準で推移

【出退店状況】

- 「Passport」ブランドで直営1店舗、FC2店舗を開設
→合計3店舗開設
- 「Passport」ブランドで直営11店舗、「バオバブ」ブランドで1店舗を閉鎖
→合計12店舗閉鎖
- 当第2四半期末店舗数は合計179店舗（前期末比9店舗減）

【経営成績】

- 厳しい経営環境を反映して減収となるものの、経費削減効果などにより黒字を回復

2. 第2四半期決算ハイライト

(単位:百万円)

	2008/2 第2四半期 (実績)	2009/2 第2四半期 (実績)	前年同期比	2009/2 第2四半期 期初予想(*)
売上高	7,495	6,918	△577	6,700
営業利益	△9	192	201	90
経常利益	△9	161	170	60
四半期純利益	△105	154	259	30
総資産	7,134	6,411	△723	—
純資産	1,127	1,170	43	—

*: 期初予想は2009年4月20日公表。その後、2009年7月13日と2009年10月9日の2回にわたり業績予想の修正を発表。

3. 収益の状況 ①

(単位:百万円)

	2009/2 第2四半期	2010/2 第2四半期
売上高	7,495	6,918
売上原価	3,765	3,536
売上総利益	3,729	3,382
販売費及び 一般管理費	3,739	3,189
営業利益	△9	192

【主な変化要因】

● 昨秋以降の景気後退、12店舗の撤退、新規出店の実質的凍結などから、前年同期比7.7%減。

● 店舗の減少と既存店売上高の減少により、売上原価が減少。
閉店店舗の値下等により、売上原価率は上昇。

● 経費削減による収益構造の改善に全社で取り組んだ結果、前年同期比14.7%減。

売上高営業利益率: 2.8%
(前年は△0.1%)

3. 収益の状況 ②

(単位:百万円)

	2009/2 第2四半期	2010/2 第2四半期
営業利益	△9	192
営業外収益	37	4
営業外費用	38	34
経常利益	△9	161
特別利益	—	201
特別損失	67	140
四半期純利益	△105	154

【主な変化要因】

● 全社を挙げて大幅な経費削減に取り組んだ結果営業利益が増加。

● 前第2四半期は、保険配当金32百万円計上。

● 役員退職慰労引当金戻入額129百万円計上。

● 第1四半期会計期間より売価還元法による低価法を採用したことにより、商品評価損87百万円計上。

大幅増益を計上

4. 財政状態 ①資産の部

(単位:百万円)

	2009/2	2010/2 第2四半期
流動資産	2,763	2,990
（うち、現金及び預金）	387	710
（うち、たな卸資産）	1,615	1,403
固定資産	3,777	3,421
有形固定資産	1,210	1,121
無形固定資産	43	44
投資その他の資産	2,524	2,254
資産合計	6,541	6,411

【主な変化要因】

●主に現金及び預金が322百万円増加したこと等により、流動資産は前事業年度に比べ226百万円増加。

●主に減価償却により有形固定資産が88百万円減少したことと、不採算店の退店により、敷金及び保証金が168百万円減少。

●以上の結果、資産合計は前事業年度に比べ129百万円減少。

4. 財政状態 ②負債・純資産の部

(単位:百万円)

	2009/2	2010/2 第2四半期
負債合計	5,525	5,240
流動負債	3,829	3,686
固定負債	1,695	1,553
純資産合計	1,015	1,170
株主資本	1,012	1,167
資本金	369	369
資本剰余金	292	292
利益剰余金	411	566
自己株式	△60	△60
評価・換算差額等	2	3
資産合計	6,541	6,411

【主な変化要因】

- 流動負債については、1年内返済予定の長期借入金が159百万円増加した一方、1年内償還予定の社債が、265百万円減少。
固定負債については、長期借入金が312百万円増加する一方、社債が245百万円役員退職慰労引当金が127百万円減少。
負債合計は、前事業年度に比べ285百万円減少。
- 利益剰余金が増加したこと等により、純資産合計は前事業年度に比べ、155百万円増加。

5. キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2009/2 第2四半期	2009/2	2010/2 第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	109	380	393
投資活動による キャッシュ・フロー	31	△78	96
財務活動による キャッシュ・フロー	84	△298	△166
現金及び現金同等物 の増減額(△:減少額)	226	6	322
現金及び現金同等物 の期首残高	381	381	387
現金及び現金同等物 の期末残高	607	387	710

【主な変化要因】

●前第2四半期に比べ、税引前四半期純利益を222百万円計上するとともに、たな卸資産が217百万円減少

●主に出店に伴う有形固定資産の取得による支出が47百万円
●不採算店の退店に伴う敷金保証金の返還による収入が72百万円
●受取保険金による収入が100百万円

●長期借入金による収入が550百万円
●社債の償還による支出が510百万円
●割賦債務の返済による支出が126百万円

6. 部門別の売上高の状況



ダイニンググッズ
Dining Goods

前年同期比
△14.1%

775百万円
(構成比11.2%)

リビンググッズ
Living Goods

前年同期比
△22.3%

933百万円
(構成比13.5%)



バラエティグッズ
Variety Goods

前年同期比
△9.2%

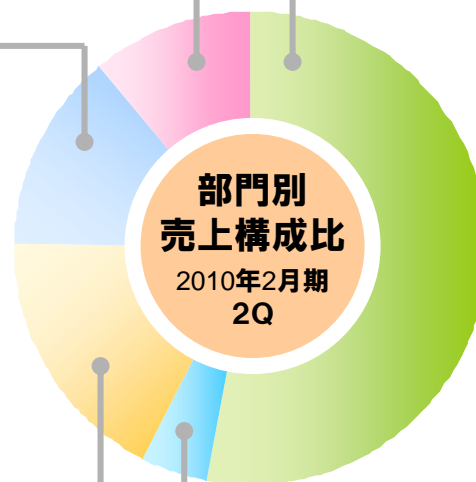
1,226百万円
(構成比17.7%)



ライフファブリックス
Life Fabrics

3,665百万円
(構成比53.0%)

前年同期比
△1.6%

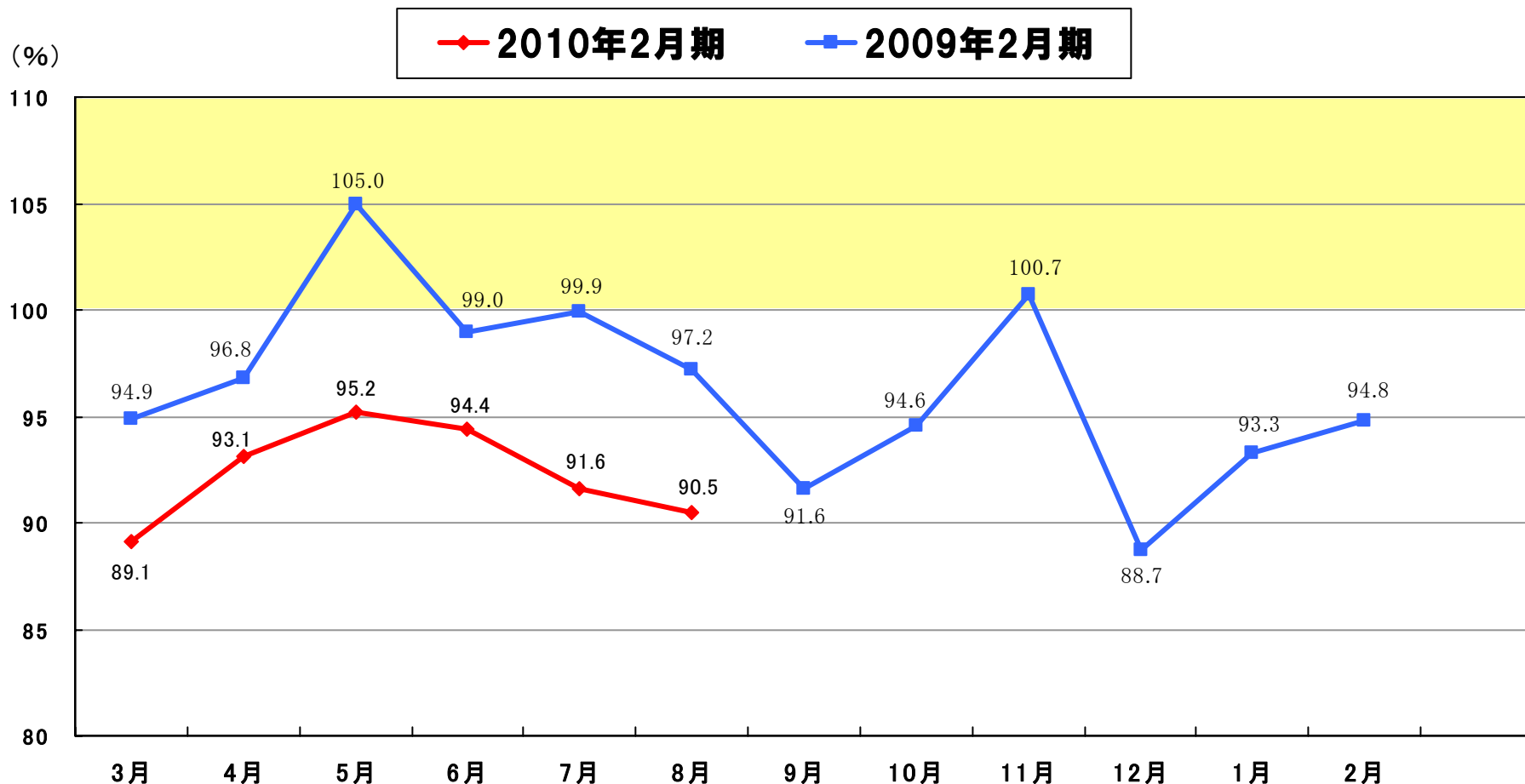


フランチャイズ卸売他
317百万円(構成比4.6%)

前年同期比
+0.5%

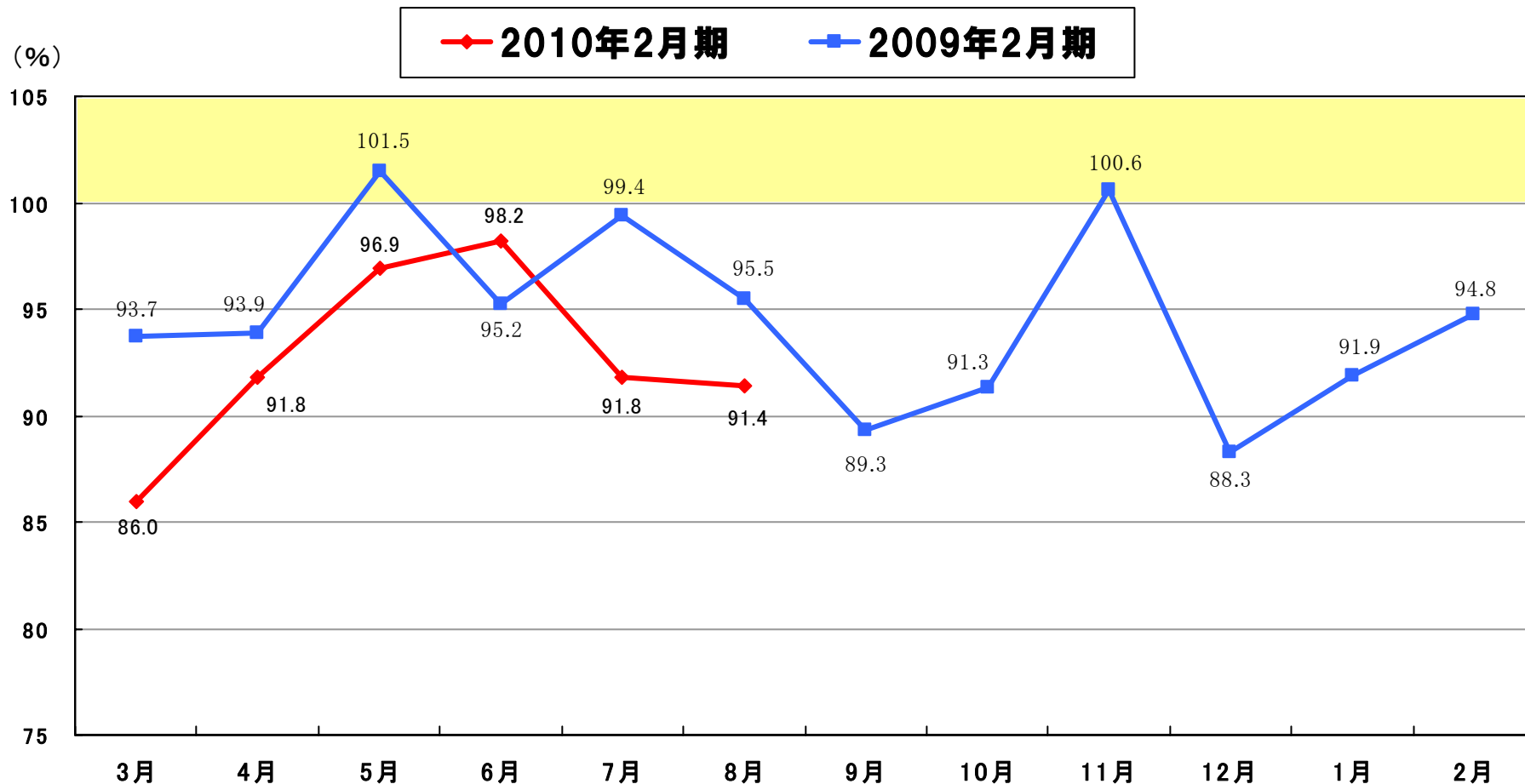
7. 月次売上動向 ①全店売上高

■全店売上高の前年同月比



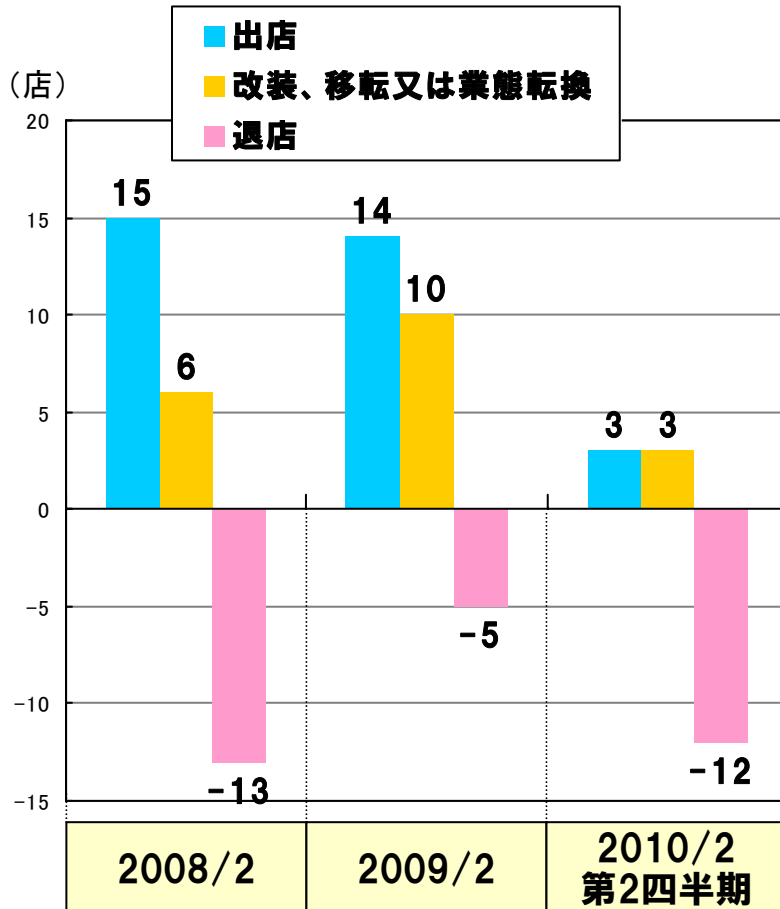
7. 月次売上動向 ②直営既存店の売上高

直営既存店売上高の前年同月比

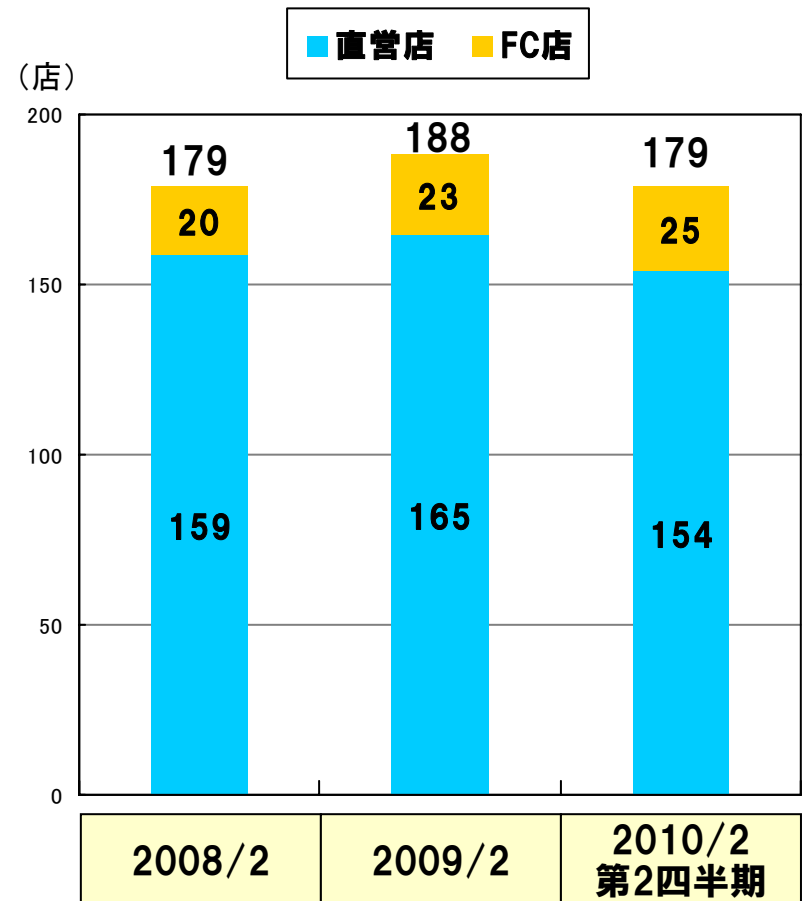


8. 店舗展開の状況

出退店等の推移



店舗数の推移



* FC店を含む

9. 通期業績見通し

(単位:百万円)

	2008/2 (実績)	2009/2 (実績)	2010/2 (期初予想)	2010/2 (修正予想)	対前期増減額
売上高	15,475	14,879	13,300	13,300	△1,579
営業利益	79	8	250	280	272
経常利益	56	15	190	220	205
当期純利益	△87	△215	60	100	315

期初予想:平成21年4月20日公表

修正予想:平成21年7月13日公表

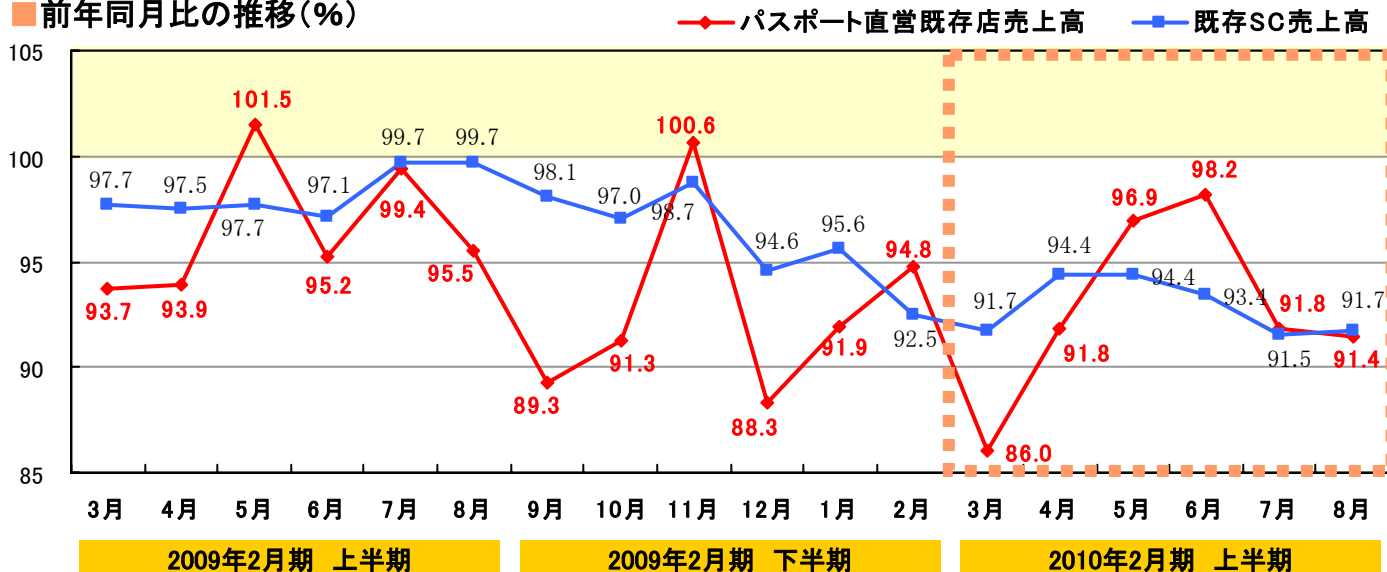
Passport



今後の戦略

1. 当上半期の売上動向と要因分析

前年同月比の推移(%)



パスポート直営既存店
上半期売上高
前年同期比

92.6%

* 既存SC売上高の前年同月比は「(社)日本ショッピングセンター協会」

【外部要因】

長期かつ大規模な景気後退
に伴う消費者の生活防衛意識
→消費マインド減退



【内部要因】

1

商品MD面

2

店舗運営面

2. 2010年2月期の経営施策と現状

【経営施策】

【現状総括】

1) 拡大路線の転換

2) 権限と責任の明確化

3) MD再構築の継続追求

収益性の改善
に貢献

道半ばの状況



3. 「拡大路線の転換」について

【施策-1】

拡大路線の転換

1 新規出店の実質凍結

2 既存店売上の底上げ

3 不採算店の大胆な撤退

4 既存店契約の見直し

【当上半期の進捗状況】

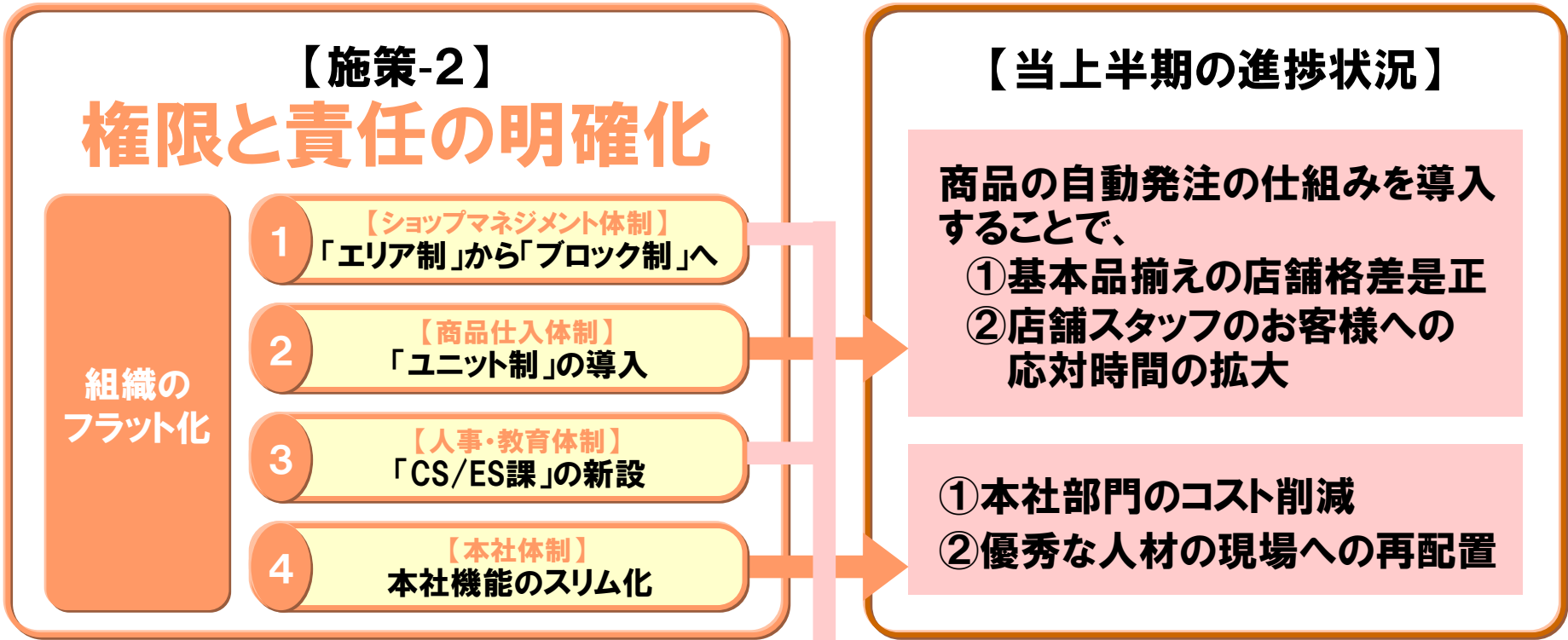
新規出店は実質ゼロ

新店3店舗のうち、
・直営1店舗は前期からの出店確定案件
・他の2店舗はFC店

退店は12店舗
(通期計画達成率80%)

下半期以降は、既存店売上の底上げに注力
(→他の2つの施策強化がカギ)

4. 「権限と責任の明確化」について



下半期以降は、店舗人財力の強化を図り、既存店活性化へ

5. 「MD再構築の継続追求」について

Merchandising【MD再構築】

お客様ニーズを的確につかむことを、
営商一体の業務フローに組み込み、
「パスポートスタイル」
「パスポートファッション」
ともいうべきMDの構築



Manpower【人財活性化】

お客様から求められている
接客レベルを、全スタッフが達成
できる教育プログラムの構築

【下期以降の取り組み】

- 「どこよりもいいものを、どこよりも安く」
- 心を豊かにする商品、会話が弾む商品

今後の消費者ニーズにマッチした
新たなギフト感覚の商品の開発へ

「接客対応は商売の基本」という
考え方に立ち返って

経験豊富な30代・40代の採用を
含めた接客レベル向上策を推進

6. 中期経営計画について

長期ビジョン「ハッピーカンパニー」を目指した定性的な目標である『M3』の取り組みは
今後も継続して推し進めていく方針

中期3ヵ年計画『M3』

(2009年2月期～2011年2月期)

Merchandising

商材を掘り起こし、

Manpower

人財を活かして
販売する。

Mission

それが
雑貨専門店として、
当社が果たすべき仕事で
ある。

**お問い合わせ先 : (株)パスポート 総合企画室 /久保田
安部**

TEL (03) 3494-4497

E-mail abegaku@passport.co.jp

【注意事項】

掲載されている当社の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業務等に関する見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断および仮定にもとづいています。実際の業績はリスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。